

# 伊丹福音ルーテル教会 全聖徒主日礼拝のしおり

## 2022 年 11 月 6 日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 149 編 4-9 節

主は御自分の民を喜び 貧しい人を救いの輝きで装われる。  
主の慈しみに生きる人は栄光に輝き、喜び勇み 伏していても喜びの声をあげる。  
口には神をあがめる歌があり 手には両刃の剣を持つ。  
国々に報復し 諸国の民を懲らしめ 王たちを鎖につなぎ 君侯に鉄の枷をはめ  
定められた裁きをする。これは、主の慈しみに生きる人の光栄。ハレルヤ。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは全聖徒の日の今日、かつてあなたにあってともに歩んだ兄弟姉妹や家族の方々を覚えています。おひとりひとりとは苦しみと喜びを合わせ味わう地上の道のりを歩み切って、あなたのはかりがたいみ旨の中で、私たちよりも先に、あなたに召されてあなたの御国に伴われ、今あなたの御許で安らぎ、私たちのために執り成しています。

イエス様は私のために十字架で死んで罪をすべて赦してくださいました。信じて洗礼にあずかるものには天国が約束されています。再び主とお出会いするときに、主の御許で、先に召された愛する方々と再びお出会いし、神様と共に賛美します。どうぞ、私たちもイエス・キリストによってすべての罪を赦していただき、神の子どもとされて、残る生涯を、それぞれに神様から与えられた使命に、日々心を込めて歩んでいくことができますように、導きお支え下さい。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：エフェソの信徒への手紙 1 章 11-23 節

キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべて

のものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。

### **福音書朗読：ルカによる福音書6章 20-31 節**

さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。人々に憎まれるとき、また、人の子のために追ひ出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、あなたがたは悲しみ泣くようになる。すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。」

### **讃美歌 517 番**

- 1 「われに來よ」と主は今、やさしく 呼びたもう。などで愛のひかりを 避けてさまよう。  
※「**帰れや、わが家に 帰れや**」と主は今 呼びたもう
- 2 **疲れ果てし旅人(たびびと)、重荷をおろして、来たり憩え、わが主の 愛のみもとに** ※
- 3 迷う子らの帰るを 主は今 待ちたもう、罪も咎もあるまま 来たり ひれ伏せ ※ **アーメン**

### **説教：「貧しい人は幸いである」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は、貧しい者は幸いである、と言われました。そんなことはない、と思いませんか。貧しいと悩みます。貧しいと、不自由です。貧しいと悔しくなります。貧しいと豊かになりたいと思います。どこが幸いなのでしょう。

イエス様は同じように、今飢えている人は幸いです、とか、今泣いている人は幸いですと言われます。賛成できますか。

イエス様が續いておっしゃっているのは、すでに今豊かになっている人はもう慰めを受けてしまっている、今満腹している人は飢えるようになる、今笑っている人は悲しみに泣くようになるということです。すでに自分の力で豊かになり、満腹して、笑っている人は、神様からいただく豊かさや、たべものや、よろこびを受ける機会を求めないということのようです。

貧しさはお金がないだけではなく、心の貧しさもあります。飢えておなかがすいているということは食べ物のことだけではなく、人生に満足していない、ということもあります。泣いている、というのはだれかに認められなくて、受け入れられなくて悲しい、ということだけではなく、理由もわからないまま無性に悲しいということもあります。きっと傷ついた心をもっているのでしょう。

私たちは小さい時から、自分のもっているもので満足するように、とか、人と比べて出遅れないように、と教えられてきました。ですから、あなたは幸せですか、と正面から尋ねられると、そうですね、まあまあ幸せかなと思います、ぜいたくは言えません、と答える人が多いのだそうです。それはきっと、幸せかどうかは人と比べたらきりがないので、自分としては今の生活で満足しておくべきだと思うし、欲を言わなければ不幸せに感じて困るということも少ない、という感覚でしょうか。しかし、お金さえあれば幸せでしょうか。健康でさえあれば幸せでしょうか。高い教育さえ受ければ幸せでしょうか。家族の結びつきが豊かでありさえすれば、近隣の人びととうまくやっていさえすれば、それで幸せなのでしょうか。

みなさんは今幸せなのでしょうか。将来の幸せを目指していますが、いまは深い幸せは感じられない、という人、これまであまり自分が幸せかどうか考えたことがなかったけれども、毎日あまりいいことがないな、と感じる人が多いということですね。もしかしたら幸せになることをあきらめている人も多い、ということもあるのかもしれません。

イエス様がお話をしていた相手は、イエス様を慕って従ってきた人々です。この人々が幸いだ、と言われていました。ルカによる福音書 4 章 4 3 節や 8 章 1 節を見ると、イエス様は町々をめぐる、神の国の福音を宣べ伝えておられます。教えを聞き、病気を癒していただき、悪霊を追い出してもらいたいと願って、イエス様に従ってきていた人々は、貧しい人々でした。お金がない、という意味ではなくて、自分は豊かではないと知っていた人ということです。18 章 2 4 節では財産のあるものが神の国にはいるのはなんと難しいことか、と言われていました。財産に心奪われていて、神の国を求めることが難しいからです。私たちは財産以外にも、心奪われて神の国を求めないことがあります。貧しい人とは、イエス様に満たしてほしい、と願っている人々です。病気の人もありました。悩んでいた人もありました。何とかしてイエス様に触れることができれば、と従って来た人々は貧しい人、神の国が与えられる人、幸いな人でした。

イエス様は、貧しい人は幸いです、神の国はあなたのものです、と言われてます。イエス様が来てくださったことが「神の国」が来た、ということでした。人々はイエス様に会っていた

いて、神様の隣りに触れることができました。12章31節では、まず神の国と神の義とを求めなさい、そうすればすべてのものは与えられます、とお話になりました。続いて、小さな群れよ、恐れるな、あなたがたの父は喜んで神の国をくださる、と言われました。18章17節では子どものように信じて願うなら、神の国が与えられると言われました。

貧しい人が幸いなのは、自分が貧しいものだと思う人は神様にお願いするからです。神様は喜んで神の国をお与えくださいます。だから幸いです。今、満足していない人、飢えている人は、神様に期待します。それで神様が満たしてください。だから幸いです。泣いている人は、神様の働きを熱望します。神様はあなたに微笑みを与えてくださいます。だから幸いです。

私たちは神様に何も与えることはできません。そうなのに、私たちは神様の前で、何か価値あるものをささげなければ喜ばれない、と思ってしまいます。神様の目には私たちの姿はそのまま見られています。私たちがどんなに外側をきれいに見せても、本心では都合の悪い時は神様を神様と思わない、まことに自分中心でわがままな者であることは明白な事実です。それなのに、私たちは神様に心やましいところを何とかかくして、自分の努力で自分を変えようとがんばっているところを見ていただきたいとがんばります。

イエス様は、貧しい人々は幸いです、神の国はあなたがたのものである、と言われました。神様の御前に自分には何も誇るものがないことを認めましょう。このままでは神様の前に出るのは恥ずかしいこと、いや恐ろしいこと、と認めましょう。それが貧しい人の姿です。自分は何も神様の前に差し出すことができる価値あるものをもっていない、むしろ私は神様以外のものを恐れ、信頼し、大切にするような罪深い者だと思っている人が貧しい人です。イエス様はあなたに神の国をお与えくださいます。イエス様ご自身が神の国です。イエス様はあなたのために十字架にかかって、あなたのすべての罪をご自分の犠牲によって償ってくださって、神様の罪の赦しをあなたに与えてくださいます。神様に赦されて、神様のご支配なさる御国に生きるようにしてください。神様にだけすべての望みを寄せている心の貧しい者を神様は大事に思ってください、赦して、神の国を与えてくださいます。

イエス様はお弟子たちに神の国を宣べ伝えるように、町や村に遣わしました。私たちにも生きる使命が与えられます。使命に生きることは幸いなことです。私たちは知らない町や村に出かけていなくても、世界のどこかに宣教師として出かけていなくても、その前に家族との関係の中で暮らします。社会で人々とのつながりの中で暮らします。教会で、愛する人々とのかわりの中で暮らします。そこが私たちがまず遣わされているところです。そこで神の国を生きる使命が与えられています。

そこには自分の力で幸せになろうとしている人々がいます。自分が貧しいものであることを見ない人々がいます。自分の欲望に縛られている人々がいます。自分の論理でものごとを判断して、付き合いにくい人々がいます。私たちはそのような人々のもとに遣わされています。人々

は貧しい人ではありません。神様に自分を赦してください、変えてください、と祈らない人々です。それで私たちに忍耐が必要です。そこには苦勞があります。がまんしきれない自分の愛のなさ、自分の弱さを痛烈に感じさせられることもあります。それは、自分には愛がない、自分には赦すことができない、自分には自分の心に合わない人を受け入れることができない、ということを感じるときです。皆さん、その自覚こそ、自分が貧しいものであることを体験するときです。

憎まれ、罵られ、汚名を着せられ、イエス様を信じて歩むときに苦しい目にあうこと、心の中の葛藤があります。イエス様に期待しましょう。イエス様に祈りましょう。私の直面しているこの現実の場に、どうぞ来てください。私には力も愛も憤りもありません。貧しい者という自覚をもって、神の国を求めましょう。イエス様、ここに来てください。私の心に来てください。私は忍耐もできず、赦すこともできず、祝福することもできません。私は貧しいです。どうか神の国を与えてください。あなたにだけ望みがあります。イエス様をお与えください。イエス様をあなたの目で人々を見ることができるよう、私を変えてください。このように祈れることは幸いなことです。

イエス様は、まず神の国と神の義とを求めなさい、そうすればすべてのものは与えられます、とお話になりました。続いて、小さな群れよ、恐れるな、あなたがたの父は喜んで神の国をくださる、と言われました。子どものように信じて願うなら、神の国が与えられると言われました。人々を恐れるな、状況を恐れるな、希望を失うな、とイエス様は言われました。自分の力や愛や憤りに信頼するのではなく、自分は貧しい者と自覚して、イエス様にすべてを期待するあなたは幸いです。神の国が与えられるからです。あなたの罪がすべて赦されます。そしてあなたの内に神の子としての豊かな命が現れ出ます。愛に溢れ、赦しに溢れ、あなたの置かれているところで、出会う人々に、見返りを期待しないですんで神様の祝福をもたらすアイデアと行動が生まれます。イエス様はあなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちを与えてくださるからです。貧しい者であることを幸いだと感謝しましょう。そしてイエス様にすべての望みを置きましょう。イエス様はあなたに神の国をお与えくださいます。

貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。ルカによる福音書 6 章 20 節  
人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### **讃美歌 121 番 献金 献金感謝の祈り**

- 1 まぶねの中に産声あげ 木工(たくみ)の家に 人となりて  
貧しきうれい 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ

### **2 食する暇も うち忘れて しいたげられし 人を訪ね**

**友なき者の 友となりて 心砕きし この人を見よ**

3 すべてのものを 与えしすえ 死のほか何も 報いられて  
十字架の上に あげられつつ 敵を赦しし この人を見よ

4 この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる  
この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ アーメン

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

**頌栄：讃美歌 543 番**

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**